

(様式3)

農業研究成果情報

No.413(平成21年9月)分類コード05-07 熊本県農林水産部

いぐさ品種「ひのはるか」の製織時の適正加湿は従来より少なくする。
「ひのはるか」(系統名:有明6号)の製織時の加湿水分量は岡山3号の14%よりやや少なめ(12%)が適当である。
農業研究センターい業研究所加工研究室(担当者:森崎和義)

研究のねらい

晩刈り用の奨励品種「ひのはるか」は「ひのみどり」同様に部分変色茎が少なく、高品質の畳表が製織可能であるが、「岡山3号」や「きよなみ」より茎が柔らかいという、茎色が濃いことから、製織時の適正加湿量を明らかにする。

研究成果

1. 長茎(長い)を使用した麻経糸一種表は、やや多い加湿で製織すると畳表の色調や品位、莖面が劣るので、加湿量を「岡山3号」の標準14%より少ない12%程度で製織する必要がある。
2. 中茎(中い)の短いいぐさを使用した綿経糸三種表は、やや多い加湿で製織すると畳表の品位が劣るので、加湿量を標準の14%より少ない12%程度で製織する必要がある。

普及上の留意点

1. い業研究所で栽培した平成19年度産普通刈りいぐさを使用して製織したものである。
2. 加湿量はいぐさの重量比で行ったものである。
3. 畳表製織に当たっては「畳表加工技術改善マニュアル」を参考に、季節・天候に合わせて加湿量を調整する。

図・表・写真等

図1

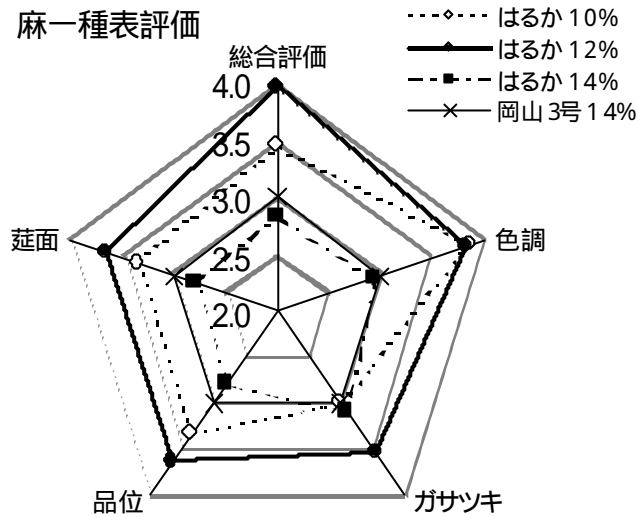
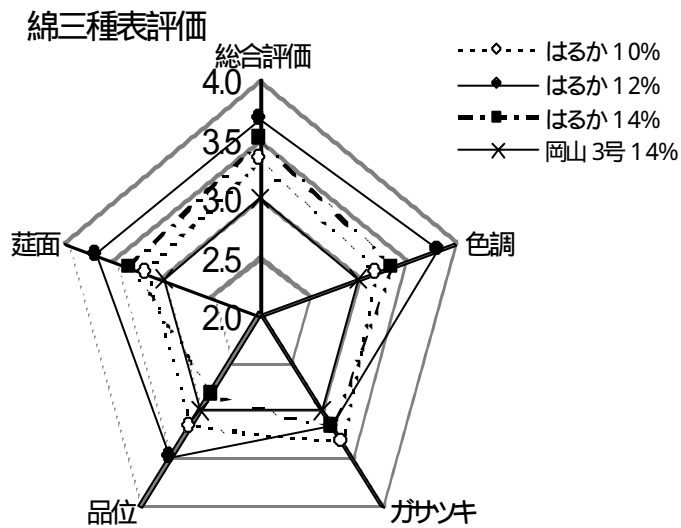


図2



い業関係者12名により、岡山3号を14%で加湿した畳表を標準評価点を3点として、品質の劣るものを1点、やや劣るものを2点、やや優れるものを4点、優れるものを5点として品質評価を行った。